

平成23年度 自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>学習と部活動の両立を図り、豊かな人間性を養い、地域や保護者に信頼されるとともに地域社会に貢献する人材を育成する。</p>	<p>今年度の 重点目標</p>	<p>①学力の向上と進路実現 ②ビジネス教育の充実と資格取得の一層の推進 ③部活動をとおした魅力ある人づくり ④保護者、地域産業経済界との連携の強化 ⑤新たなビジネス教育への挑戦</p>
---------------------------	---	----------------------	---

評価項目	評価具体項目	現状	年 度 当 初			評価結果 (3)月			
			目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	主管	経過・達成状況	評価	改善方策	
1 学力の向上と進路実現	主体的に学ぶ力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習する意欲と態度を育成する 家庭学習の習慣を確立する 	<ul style="list-style-type: none"> 始業前に着席し、教科書やノートを準備するなど授業を受ける姿勢はほぼできているが、まだ自らの学びとはなっていない 自宅学習が全体的に短く、習慣になっていない 	<ul style="list-style-type: none"> 学びの楽しさを知り、自分の目標に向かって進んで学習に取り組んでいる 部活動との両立を図り、授業を大切にしている 時間の使い方を工夫し、自分に適した家庭学習を日常的に行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 予習を中心とした課題を出すことによって、授業への意欲につなげる 優れた生徒作品などを校内に掲示していくことなどで、皆から称賛される場面をつくり、意欲を引き出す 鳥商デパートや鳥商祭など様々な場面で生徒が中心となって企画していく体制をつくる 最近の卒業生の話を聴く機会を設ける 	教務 進路	<ul style="list-style-type: none"> 鳥商デパートでは、生徒総務を中心として、イベント企画や各店舗でのアイデアを活かして自主的に運営することができた。 検定、調査前には積極的に学習に励むが、日々の家庭学習の習慣がなかなか定着していない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習と部活動の両立をするため部活顧問との連携をさらに図る。 生徒の実態に応じて教材の精選や工夫、教具の活用を行う。 各教科・科目で課題を出す(提出期限の厳守と未提出者の指導)
	自己表現力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 読書を通じた自己表現力を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> 読書が十分に習慣化しておらず、図書館利用もやや固定化している 蔵書資料を活用しながら、主体的に自己表現しようとする力が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> 読書の習慣化が見られ、幅広い生徒が図書館を利用している 学年、教科、分掌との連携が強化され、生徒の表現力育成に向けた共通理解が図られている 社会人としての基礎能力である「聞く力」「読む力」「書く力」「話す力」「伝える力」が身につけている 	<ul style="list-style-type: none"> 新入生を中心に図書館オリエンテーションを実施する 移動図書館や読書標語募集等生徒主体の活動を進める 図書館を利用した授業実践例等の紹介をする 小論文指導委員会を中心に自己表現力育成プログラムを推進する 	図書	<ul style="list-style-type: none"> 自己表現力育成プログラムに基づいた指導が各学年で行われた 「書く力」「話す力」「伝える力」は作文、面接を通し、少しずつ身についた 年間貸出冊数が減少した 読書が趣味的な内容に偏る傾向がみられた 朝の読書に十分に組み込むことができなかった 	B	<ul style="list-style-type: none"> 図書館内を利用しやすいレイアウトや配置にする 量から質への転換を図るため、本についての情報を積極的に発信する 朝の読書の時間確保と指導の徹底 自己表現力育成プログラムを中心に、すべての教科における表現力育成指導を連携させる
	魅力ある授業	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上につながる魅力ある授業を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力向上や、学習意欲が高まる指導を目指し、授業を改善していく意識の高まりや工夫が少しずつできている 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が授業を理解し、興味関心を持って取り組んでいる 全教科で研究授業が行われている 校外に対する公開授業が行われている 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートにもとづく授業改善職員研修会を実施する 各教科で研究テーマを設定し授業改善に向かう取組みを継続する 中学校との連携授業及び県外教員との連携授業を行う 県外への教員派遣を行う 	教務	<ul style="list-style-type: none"> 県外の教科指導力に優れた教員と合同で公開研究授業、研究協議を実施した。 4教科で校内研究授業を実施した。 県外の大学教授による授業改善職員研修を実施した。 生徒による授業評価アンケートを実施した。 岡山県へ1週間教員派遣を行い、授業改善等に取り組んだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善について、日々の積み重ねを大切にし、組織的に取り組んでいく。 次年度も授業改善につながる研修会を引き続き設定する。
	進路実現	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現に向けて学力を保障する 早期に進路目標を設定させる 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次の類型選択を通し、早期に進路の方向を決定しているが、目標達成に必要な学力の育成が十分でない 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や進路補習により、選考試験や入試の実態がよく研究され、必要な学力がついている キャリアデザインの目標と活動が明確になっている 就職内定率が100%である 	<ul style="list-style-type: none"> 補習の計画的実施及び模擬試験の見直しと意義を明確にする 明確な進路意識を早期にもたせるために面接指導を早期に始める 個人の進路指導データをファイル化するために現行の「進路のてびき」をノート化する 進路指導に係る職員研修を実施する 	進路	<ul style="list-style-type: none"> 1年生、2年生の進研模試を「ベネッセ学力診断テスト」に変更し、生徒の学力分析を詳細化した 校長を筆頭に企業訪問を行い就職先開拓をおこなった 3年生が2月に1、2年生の各クラスで進路体験談を話すLHRを実施し、1、2年生の進路意識が相当高まった。 3年生就職希望者の面接練習を1ヶ月早く開始し、夏休みには外部講師の面接指導もとりにれたことが効果的であった 2年生の夏季公務員セミナー、企業人による自己表現セミナーは生徒の意欲喚起に役立った 進路実現に向けて、生徒の進学、就職に対する意識は非常に高い 「進路のてびき」を改訂し、ノート部分も導入したが、活用は不十分であった 職員研修は日程等の調整がつかず実施しなかった 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「進路のてびき」を大幅に精選し、見やすいものにする。進路指導用ノートは別途用意し、資料やワークシートの綴じ込みや書き込みができるものにする。 生徒の進路指導に活用できるような「個人進路データシート」を次々年度の導入に向けて整備する。 進路資料室の環境整備と各教室設置の進路資料の有効活用を促進する 各クラス進路委員の主体的活動の場を与える。
	特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 特別な教育支援を必要とする生徒の実態把握と、組織的な支援方法や体制の整備が十分となっていない 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育の体制を整え、個々の生徒理解を進める 特別支援教育に関する職員研修を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育委員会を中心に校内体制を整える 中学校連携を図る 関係機関と連携し特別支援教育に関する職員研修を実施する 	保健	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育委員会で本校の状況確認と今後の計画と取組みの方向性を検討した 外部講師による特別支援教育教職員研修会を実施し、特別な支援を必要とする生徒への支援の在り方について理解を深めた 	B	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修を継続して行うとともに、担当者ばかりではなく多くの職員への研修会への参加を促進する
上位級への挑戦	<ul style="list-style-type: none"> 全商検定1級3種目以上合格に主体的に取り組む、高度な知識を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> 1種目でも多くの全商検定1級に合格する気持を持ち、さらに上級資格に挑戦する取り組みが定着している 	<ul style="list-style-type: none"> 類型関連の検定1級をベースに3種目合格を目指し取り組んでいる 1級3種目以上取得者は80名以上である 日商簿記、日商販売士、基本情報試験の合格にむけて挑戦している 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の検定取得目標の全員合格を目指す学校全体の雰囲気づくりを進める 様々な時間を活用して上位級への取り組みを加速する 専門学校講師を招へいし、傾向と対策に重点を置いた指導を行う 	商業	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、各クラスにおいて各種全商検定に合格できるように積極的に取り組んでいる 今年度の1級3種目以上取得状況は56名であり、昨年度(43名)より増加した。個々の検定取得状況はほぼ目標を達成でき、上位級への意気込みも高まりしっかりと取り組んでいる。 専門学校講師による検定直前対策講座や補充授業にも意欲的に取り組んでいる 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個人個人の各種検定取得の目標に向けて更なる意識の高揚を図り、学年と商業科の連携した指導を進める 検定対策等の補習を実施する 専門学校講師による上位級資格取得対策講座 	

2 ビジネス教育の充実と資格取得の一層の推進	ビジネス実践力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 検定取得で得た知識をもとに、社会で通用するビジネス実践力を養う 	<ul style="list-style-type: none"> 授業が検定取得に傾き、実践力育成の部分がやや不足している 体験的、経験的な学習による学びの深まりがややもの足りない 	<ul style="list-style-type: none"> 3年生では企業の即戦力として最低限の簿記、パソコン、マーケティング知識を身につけている 体験的活動を通し、ビジネスに対する実践力、応用力を身につけている 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で体験的、経験的な高まりのある工夫をする 社会人講師の活用のあり方を、よりビジネス実践力が高まるよう検討を進める 	商業	<ul style="list-style-type: none"> 入学時から社会に出てからも役立つ商業教育を意識し、ビジネス基礎研修やビジネス体験実習を体験させ、集大成として鳥商デパートを企画、開催する取り組みがビジネス実践力育成に向けて効果が上がっている。 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の学識経験者、研究者、企業代表を構成員とした鳥商ネットワーク会議の意見を参考にし、本校の商業教育の更なる充実を図る。 本校教育の集大成である鳥商デパートのより一層の充実に向けて、外部講師活用やデパートの組織改革をおこないビジネス実践力の向上を図る
	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶が習慣となっている 時間厳守、5分前行動ができる 好感度を与える身だしなみができる 	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒が挨拶励行、服装整備、時間厳守の面で状況は良いが、まだ自らの重要な問題として捉えていない生徒がいる 	<ul style="list-style-type: none"> 全校生徒が明るく、元気でさわやかな挨拶ができている 遅刻ゼロと5分前行動ができています 面接試験でも通用する身だしなみが常時できています 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣を自らの重要な問題として捉え、学校全体として内面的な成長を求める指導を進める SHR、授業、集会において時間厳守やマナーが定着できるよう全職員で指導を継続する 生徒会活動、部活動と連携し毎朝の挨拶運動を継続する 定例の服装頭髪指導を機能させた継続的な指導を続ける 	生活	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝、生徒玄関前で職員と生徒会生徒が連携した挨拶運動を行うことで、身だしなみの確認やさわやかな気持ちで学校生活を送るための環境づくりを心がけた 遅刻カード制も浸透し、遅刻者は減少した 服装、挨拶はおおむね良い状態である 時間ちよどの行動が多く、5分前行動はまだ定着していない 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 挨拶運動の継続 SHR、授業、集会において、時間厳守と5分前行動を全職員で継続指導する 定例の服装頭髪指導と日常の指導との差がない指導を全職員が行う
3 部活動をとおした魅力ある人づくり	部活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 部活動をとおして人格形成と人間力の育成をすすめる 部活動の「原則全員加入」を推し進める 優勝をめざした練習となっている 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の目的は人格形成と人間力の育成であるということが学校全体に浸透しつつある。 原則全員加入であるが、部活動を中途でやめると生徒が無所属となっているケースがある 県内の上位にはいるが、優勝や全国大会出場にはあと一歩である 	<ul style="list-style-type: none"> 優勝をめざした取り組みの中で、社会人として必要な力がついている 授業と部活動の両立をめざして工夫し、生活全般のけじめがついている 特別な事情がない限り生徒全員が部活動をしている 	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年生を重点的に部活動全員加入の取り組みを実施する(未加入者の調査) 部室の一斉清掃を実施する。部室の鍵管理を徹底する 各種大会の表彰式・表彰伝達式を行う 部活活性化や部活動のあり方に関する職員研修会を実施する 	生活	<ul style="list-style-type: none"> 部活加入調査を行い、全入に向けての指導はしたが生徒個人の思いもあり実現できなかったが、部活動加入率は年々増加し、今年度は86%であった 部活動の大会成績においては、多くの部が安定した成果をあげ、学校の活性化に繋がった。野球部の甲子園出場においては全校体制で応援するなど全校の士気が高揚した 部活動に関する職員研修会は不実施 学期ごとに優秀部活動表彰を実施した 清掃、鍵の管理は、後半不徹底であった 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 未加入者や退部者の確認を随時行い、折に触れ全入を勧める 部活動の継続に対し悩みを持つ生徒の相談体制を密にする。(部顧問、クラス担任、学年主任等) 顧問会を毎期実施し、運動部と文化部、相互の連携を充実させる 必要に応じて部活動の再編成を行う
4 保護者、中学校との連携を強化する	保護者・中学校連携	<ul style="list-style-type: none"> 活力あるPTA活動の創造を推進する 中学校に対する情報発信を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、中学生に対し本校教育の説明が十分なものはなっていない 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が教育方針や日常の教育活動を理解し、積極的に協力してくれる 中学生が本校の特色や他校との違いを理解している 	<ul style="list-style-type: none"> 「学年だより」等を配布する PTA総会、各委員会活動の持ち方を再考する 体験入学を改善、充実する 「学校案内」を改訂する ホームページの掲載情報を頻繁に更新する 	教務 総務 商業	<ul style="list-style-type: none"> 10月に湖東中学校(国語、英語、数学、理科、商業)、2月に北中(商業)で出前授業を実施し、中学生に高校教育への理解と本校教育への関心を高めることができた。 鳥商デパートの中学生の店など、中高連携が進んだ。 7月に実施した中学生体験入学には、昨年度を上回る601名(昨年度561人)の参加者があった。事後アンケートでは全体の肯定度約90%と高かった 体験入学では、本校の商業教育を理解してもらえるように『模擬販売取引』をとおしてマナーなどを努めることができた 学校評価保護者アンケートを実施した。 PTA各委員会活動については湖山地区連絡協議会において来年へ向けた新しい取り組み形態が提案された。 「学年だより」が毎月発行できた 「学校案内」を改訂できた ホームページで、鳥商の魅力活動をタイムリーに発信できた 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新回数を増やすことにより、魅力的なホームページを作成して情報発信をする。 PTA総会については来年度早期に各分掌から提案していただいて検討する。 PTA各委員会活動については湖陵高校と連絡調整を図りながら、新しい取り組みを行う。
5 新たなビジネス教育への挑戦	新ビジネス教育・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 鳥商教育の集大成として内容が充実しており、一層地域の方に喜んでもらえる鳥商デパートになるよう取り組んでいく 新時代を生き抜く力を育成する 	<ul style="list-style-type: none"> 鳥商デパートを通して生徒は準備段階から開催当日にかけて様々な力をつけている。地域連携を一層進め、地域から愛される鳥商デパートになるよう期待されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 将来、地域産業経済界で活躍するために必要な人間力とビジネスに関わる総合的な力がついている ビジネスに必要な戦略的な思考が身につけている 地域から学ぶ意欲や態度が一段と身につく、地域から信頼されている 	<ul style="list-style-type: none"> 商業科職員全員がケーススタディ教育を研修し、授業での活用に活かす 企業や外部有識者からの意見を反映した取り組みができないかどうか積極的に検討していく 	商業	<ul style="list-style-type: none"> 3年生は、鳥商デパートや課題研究発表会などをとおして、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等を身につけて、鳥商教育のめざす姿である「地域の産業経済界をリードし、活躍する人物像」に近づいている 2月に「鳥商デパート成果発表会」を開催し、この発表会を広く地域社会に情報公開することで企業との共同研究・連携推進を図り、今後、より充実した内容の鳥商デパートを目指していくとともに、来年度に現1、2年生が積極的に取り組めるように意識の高揚を図れた 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も、実社会に出てから通用するビジネス教育を充実させるために、「ケーススタディ教育」を授業で活用できるように更なる研修に励む 鳥商の魅力がより伝えられるように外部に対してどんどん情報発信していく

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%程度] C:変化の兆し [60%程度] D:まだ不十分 [40%程度] E:目標・方策の見直し [30%以下]